

# 幌呂小学校活用に 関する提案議題

この村で みんなの 居場所づくり



特定非営利活動法人



# 議題の概要

- ご挨拶・法人紹介
- 活用の背景と目的
- 活用したい理由
- 活用イメージと具体的な取り組み案
- 想定される効果・メリット
- 今後の展望と協力のお願い

# 特定非営利活動法人ソレゾレについて

設立年： 2020年

中心事業：放課後等デイサービス（障がい児通所施設）

## 活動の目的

- 障がいのある子どもたちとそのご家族のための「居場所づくり」
- 一人ひとりの違いを大切に、「その子らしさ」を支える支援の実践
- 地域と共に育ち合い、支え合う共生社会の実現

## 主な活動内容

- 放課後等デイサービスの運営
- 教育委員会・学校との連携による支援（送迎・通学・校外学習など）
- 不登校傾向のあるお子さんへの居場所支援
- 地域交流活動の運営（ソレゾレCafé・駄菓子屋ソレゾレ・サロン交流活動等）
- 学生ふくめスポットワーカーの採用

## 大切にしていること

- 障がいのあるなしにかかわらず、誰もが安心して過ごせる場所をつくること
- 地域の中でまざりあい、この村で豊かに過ごすことができること
- 支援される側も支援する側も、共に力を合わせて歩むこと





# これまでの活動実績と地域との関わり

## 【放課後等デイサービスの運営】

- 療育的支援・生活支援・余暇活動などを個別ニーズに合わせて提供
- 重度障がいのあるお子さんへの支援

## 【学校・教育との連携】

- 養護学校・特別支援学校への通学支援
- 近隣小中学校と連携し、校外学習時の移動・付き添い支援
- 不登校傾向のあるお子さんの受け入れ
- 教育委員会・教職員との定期的な連携・情報共有

## 【地域との協働・交流活動】

- ソレゾレカフェの運営（地域の方々とこどもたちがふれあう交流の場）
- 駄菓子屋の開催（地域ボランティアや中高生と連携し、地域とのつながり）
- 地域のお祭り・イベントへの参加
- 地域高齢者サロンとの定期的交流活動

## 【専門的な研修・啓発活動】

- 支援スタッフ・保護者向けの障がい理解研修の開催
- 防災対策に関わる会議



## 村内の会議や生活状況から聞こえる課題

### 他NPO法人の課題

日々の業務でいっぱいいっぱい・・・

DX化や広報にも力を入れたいが、日々の業務でいっぱいいっぱい。イベントもしたいし、他との交流もしたいけど・・・



### 子育て世代の課題

遊べる場所が少ない。子ども達が安心して遊べる場所が少ない・・・

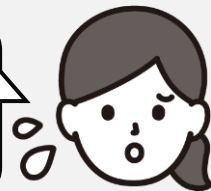
保育園が終わった後などに小さい子が安心して遊べる場所が少ない。



### 子育て世代の課題

隙間時間に働ける場所・過ごせる場所が鶴居村内に少ない

子どもが保育園や学校に行っている短時間に鶴居村で働ける場所・何か趣味などができたり学べる場所が少ない。



### 障害児・者の課題

児童から成人への繋がり希薄...

児童から成人の障がい者福祉のつながりが希薄。このまま、鶴居村で暮らせるのか不安。



### 高齢者の課題

交流サロンはあるけれど決まったメンバーでの閉鎖的なものになってきている。

高齢者サロンの集まりはあるが、広がりが少ない。小さい子と触れ合ったり、役に立つことができれば。



### コミュニティの課題

気軽に集まれる場所が少ない...

みんなの食堂や移住者向けの集会を開きたいと思っても、定期的・継続的に団体に利用できる場所が少ない。







## 地域現状と地域課題

### 1. 人口減少と少子高齢化の進行

- 村の若年層の減少が顕著
- 出生数の低下により、保育園・学校の統廃合や地域行事の縮小が進む
- 高齢者人口が増加する一方で、支える若者や働き手の不足

### 2. 障がい児者・不登校児などの「見えにくいニーズ」への支援の手薄さ

- 学校に行けないこどもたちの「居場所」や学びの保障も十分とはいえない
- 大人の目がある中で安全に遊べる場所が少ない

### 3. 多世代・多様な人のつながりの希薄化

- こどもと高齢者、若者と村民の交流機会が限られている
- 個々の活動場があっても、つながりが薄く、活動が発展しにくい



# なぜ、幌呂小学校なのか？

## 1. 「地域に眠る、公共資源」であるから

- 幌呂地区には他に集会所的な機能を持つ場所が少なく、幌呂小学校は地域にとって数少ない「広さ・機能・立地」を備えた公共資源。
- こうした空間をすでにあるものを生かして再生することが、今の時代の地域づくりの在り方に合っている。

## 2. こどもを中心に多様な人が集まれる「安心して過ごせる広さと静けさ」があるから

- 音・人・交通量の刺激が少なく、裏に山があり、自由にのびのびと過ごせる環境
- 廊下や教室の広さが十分にあり、移動や医療的ケア・福祉用具の使用にも対応可能。
- 一部屋一部屋にドアがあり、必要な時には空間を分けられるなど、支援上の柔軟性も高い。また扉を開けるとホールと空間を共有できる。





# なぜ、幌呂小学校なのか？

## 3. 幌呂という場所の「歴史と文化」が生きているから

- 幌呂小学校は、100年以上にわたり地域の教育の中心として、多くの子どもたちが育ってきた場。
- タンチョウの給餌活動や農業文化の背景もあり、地域に根差した自然・文化・暮らしを体験的に伝えることができる拠点となり得る。
- 「学び舎」としての記憶が残る場所だからこそ、新しい“みんなの学校”としての再生に意味がある。

## 4. 地域の人と人が「また出会い直せる場所」として機能するから

- 幌呂小学校は、過疎化・高齢化が進む幌呂地区にとって、唯一「地域が再び集う」場を創出できる場所である。
- 地域住民、NPO、ボランティア、学生、移住者など、多様な人がこの場所では出会い、協働し、新たな鶴居村の文化やつながりをつくる拠点になれる。
- 「地元の人の手で守ってきた場所」を、次世代につなげる希望の象徴にしたい。





# 「みんなの学校」というコンセプトの実現

こどもも大人も、障がいのある人もない人も、村に暮らす一人ひとりがふらっと立ち寄り、ほっとできる村の「まんなか」の場所に。

学ぶ、遊ぶ、語る、食べる、手を動かす——

さまざまな時間と文化が、自然に重なり合い、

気づけば「誰かとつながっていた」と思えるような、そんな優しい空間を目指します。

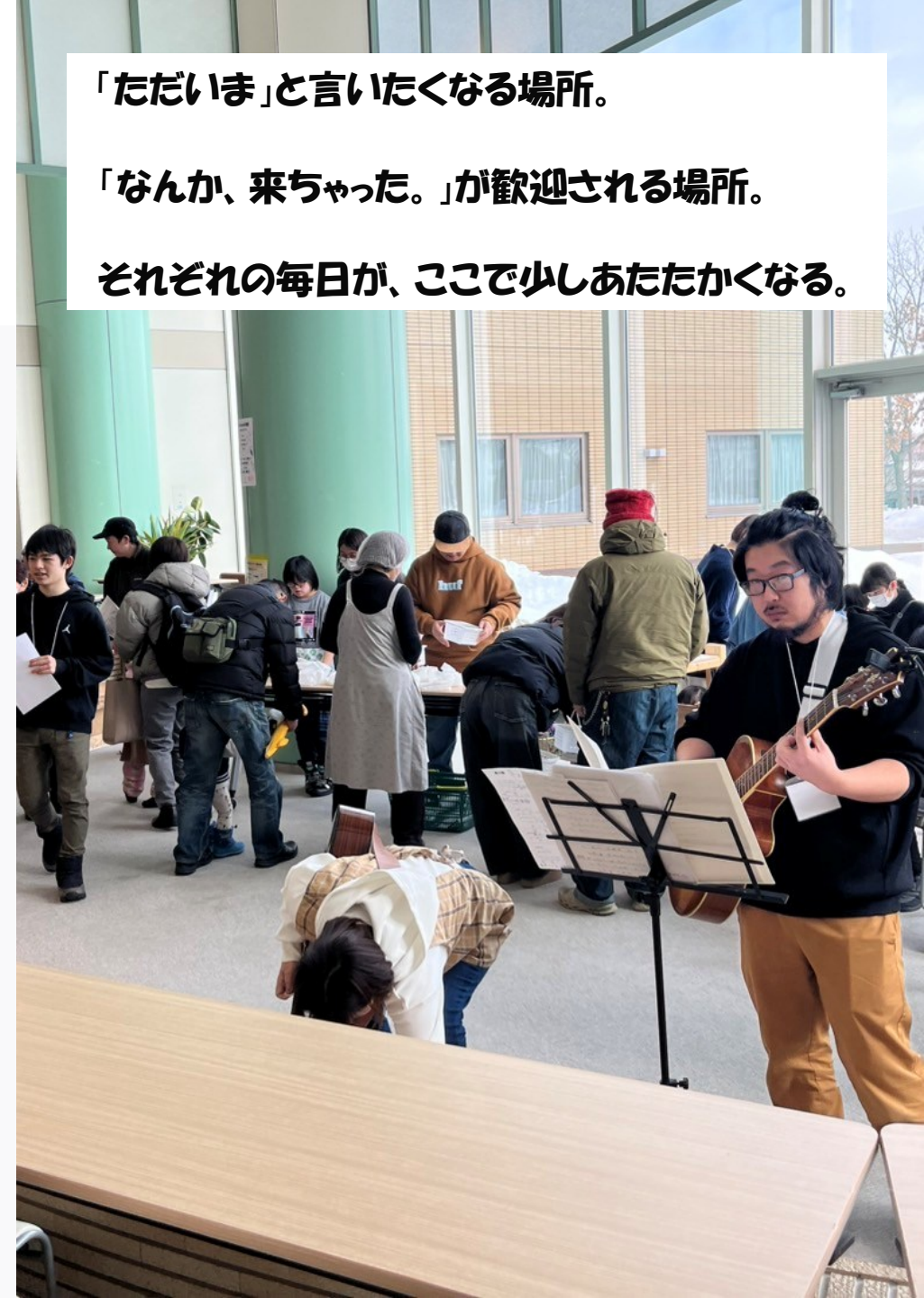
## 【大切にしたいキーワード】

- ひらかれた場所 … 誰でも来てよい、気軽に関われる
- ちがいを楽しむ場所 … 世代や立場をこえて共にいる
- 文化と交流の場所 … 地域の知恵・技・食・芸術が息づく
- 村のまんなか … “村の空白地”ではなく、村の中心地に

「ただいま」と言いたくなる場所。

「なんか、来ちゃった。」が歓迎される場所。

それぞれの毎日が、ここで少しあたたかくなる。





# 幌呂小学校をシェアスペースとして活用するメリット

## 【1】拠点ができることで、活動の安定性と継続性が向上

- ソレゾレのように、福祉や教育に関わる団体では、
  - ・こどもたちが毎回異なる場所で過ごすことの不安や負担が軽減され、安心して活動できる環境が整う
  - ・日常的に使う道具（車椅子、ベッド、クッション、おもちゃ、学習道具など）を常設・保管できるため、準備の手間や運搬の負担が減る
- 医療的ケアが必要な子どもにも対応できるよう、介助用具や静養スペースの設置が可能になり、安心して過ごせる空間になる

## 【2】地域活動との接点が増え、『創発的な場』に

- たとえば「タンチョウの給餌」や「地域の見守り活動」など、地域とつながる活動を継続的に行いやすくなる
- 地域住民や他団体との偶発的な出会い・交流も生まれやすくなる。つながりから生まれる『創発的な場』に

## 【3】団体ごとの「自分の居場所」感と、交流できる「みんなの場所」感の両立

- それぞれの団体が必要な空間（個別スペース）を確保しつつ、廊下や共有ホール、などを共用スペースとして利用できる
- 「楽器を置いておける」「作品を展示できる」「他団体と顔を合わせられる」など、居場所としての安心感とつながりの可能性が共存する。保管や展示ができる場所に。



# 鶴居村における幌呂小学校のメリット

## 1. 子どもから高齢者までが集う「地域の共生拠点」へ

幌呂小学校を活用することで、保育園や学校だけではない“第三の居場所”が生まれます。障がいのあるお子さんも、子育て中の親も、高齢者も、若者も、誰もが気軽に集い、交わり、支え合える空間となります。年齢や立場を越えた交流が日常の中で育まれ、**孤立の予防や地域の安心感**につながります。

## 2. 地域団体やNPOがつながることで生まれる「村のチーム力」

NPO法人や福祉団体、文化活動グループなど、村内で活動するさまざまな団体が顔を合わせ、協力し合える共通の場所となり得ます。バラバラに活動していた団体がひとつ屋根の下でつながることで、新たなプロジェクトや地域づくりが自然に生まれる**「鶴居村ならではの連携文化」**が育ちます。



# 鶴居村における幌呂小学校のメリット

## 3. 廃校の「再生モデル」としての意義

使われずに閉ざされたままの校舎は、年々老朽化し、地域の「空白地帯」となってしまいます。誰かがそこに入り、息を吹き返すことで、「人が動けば、場所も生き返る」という好事例となり、他の未活用施設の活用にもつながる希望の芽になります。

## 4. 100年続く「タンチョウの給餌活動」の次世代への継承

幌呂地区は、タンチョウの餌やりを行ってきた歴史ある地域です。この伝統を、地域の子どもたちが中心となって体験・継承できる場として幌呂小学校を活用すれば、自然保護活動と地域の教育・誇りをつなげる素晴らしい取り組みになります。この活動は社会教育・環境教育にもつながり、地域外からの注目も集まる可能性があります。





# 鶴居村における幌呂小学校のメリット

## 5. みんなの「居場所」に

家庭にも学校にも、居場所を感じられない子どもや大人たちがいます。幌呂小学校は、そうした人々が「ここにいていい」と思える、心の拠りどころになる可能性を秘めています。

そのような居場所が地域にあることは、住民の精神的な安定や生活の質向上につながります。

## 6. 地域福祉の精神を体現する場として

この拠点は、福祉制度に依存するだけでなく、「地域の人たちが支え合う」実践の場となります。

小さな助け合いの積み重ねが、鶴居村全体の「あたたかさ」と豊かさとして伝わり、外部からも注目されるような共生のまちづくりモデルになる可能性があります。





幌呂小学校での活動の様子を、こどもたちの生き生きとした表情や地域の自然の美しさとともに発信することで、鶴居村の魅力が全国に広がる可能性があります。

## 鶴居村における幌呂小学校活用のメリット

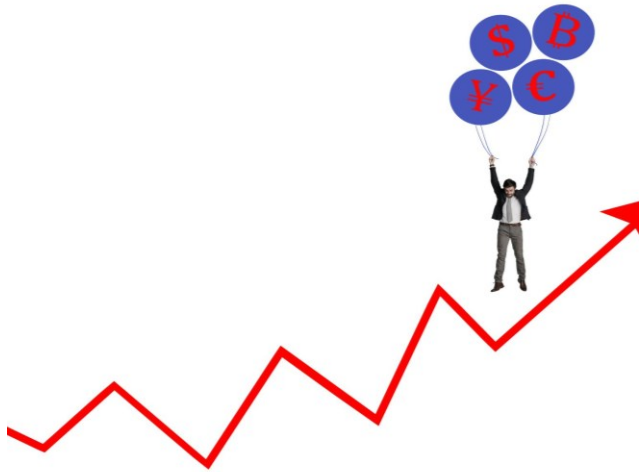
- こどもから高齢者までが集う共生拠点の形成
- 地域団体やNPOがつながる村のチーム力
- 廃校の再生モデルとしての意義
- 次世代へのタンチョウの給餌活動の継承
- 居場所を提供する心の拠りどころ
- 地域福祉の精神を体現する場
- SNS等を活用した魅力発信の拠点





そして  
こうした取り組みが...

地域内外の交流促進と関  
係人口の増加へと



**地域交流の促進：高齢者・子育て家庭・若者の創出**



**参加しやすい環境・自然と繋がりあえるきっかけ**



**支え合う地域福祉の村／安心して豊かに過ごせる村**



**興味を持ってくれる人・訪問者の増加**



**関係人口の増加へ**

# 幌呂小学校活用に向けた課題と提案

- 建物の老朽化と設備の整備が必要
- 維持管理コストの負担を軽減する方法
- 防災・安全対策
- 利用者と担い手の確保と育成が重要
- 長期的な運営ビジョンが必要







## 課題①：建物の老朽化・設備の現状把握と整備

内容： 暖房・電気・水道設備の劣化が懸念される。特に冬季の暖房確保が大きな課題。

提案：

- 村と連携し、まずは最低限のインフラ復旧に向けた現地調査の実施
- 初期整備は段階的に、使用頻度の高い一部エリアから整備
- 暖房に関しては、ペレットストーブや電源分割など、省エネ型の代替案も検討
- 赤い羽根共同募金や、地域づくり交付金などへの申請も視野に入れる

## 課題②：維持管理コスト（光熱費・清掃・保険等）の負担

建物を使い続けるには継続的なランニングコストがかかる。NPO単独での負担は難しい。

提案：

複数団体（NPO・ボランティア・行政）による「共同運営型モデル」の構築」村との協定により、公共性の高い活動に限定して無償/減額貸与の可能性を検討

使用頻度や規模に応じた使用料スライド制で関係団体の協力を得る  
定期的な掃除や整備をボランティア活動として地域に呼びかけ





### 課題③：防災・安全対策の不備

避難経路や火災報知器、バリアフリー対応が不十分な可能性。

提案：

- 防災計画と緊急時対応マニュアルをNPO主体で作成し、行政と共有
- 活動エリアから優先的に安全確認・簡易的な改修を進める
- 緊急連絡体制（消防・医療・警察）と連携できる連絡ネットワークをつくる

### 課題④：利用者・担い手の確保と育成

運営には人手と知識が必要。特に障害児支援や高齢者対応には専門性も求められる。

提案：

- 地域内外のボランティア・学生との連携（釧路公立大学・教育大など）を推進
- 定期的なスキルアップ研修の実施（障害理解・介助・安全管理）





## 課題⑤：将来的な運営ビジョンと持続可能性

長期的な資金・人・仕組みづくりが必要。

提案：

- ・「村の共生拠点構想」として長期ビジョンを策定し、村と共に推進
- ・多世代・多機能型の活用（デイ・福祉・カフェ・教育・文化等）を構想していく必要がある
- ・クラウドファンディングや企業との連携など多様な資金確保策を導入
- ・活動ごとのモニタリングと成果報告体制を構築し、常に見直せる仕組みづくり

※ソレゾレではサイボウズのキントーンを活用しています。

## ～活用方法（例）～

○地域の方の交流の場（カフェ・おしゃべり・サロンなど）

○親子の居場所 / 地域先生による学びの場

○放課後等デイサービス（療育・遊び・余暇活動）

○地域の講座・上映会・音楽練習・語り場など

その他現段階でお話があった活用方法

◎ 給餌体験・自然観察・雪遊びなど、季節行事と自然体験の拠点

◎ 災害時の一時避難場所としての整備・地域訓練の実施

◎ 地域内の複数NPO・団体での合同文化祭や展示会

